

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4075000143
法人名	社会福祉法人 福祉松快園
事業所名	松快園グループホームやすらぎの里
所在地	福岡県遠賀郡水巻町吉田南2丁目9-1 (電話) 093-201-4822

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	H21年 6月 13日
評価確定日	H21年 7月 6日

【情報提供票より】 (平成21年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 8月 1日
ユニット数	1 ユニット
利用定員数計	9 人
職員数	10 人
常勤	7人
非常勤	3人
常勤換算	8.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	5階建ての ~ 4階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(30万円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,550 円		

(4) 利用者の概要 (平成21年4月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	80歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉田中央クリニック・八幡厚生病院。正和中央病院・めぐみ歯科クリニック
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

2つの市に隣接する事業所は、広大な敷地の中に介護老人福祉施設をはじめケアハウス、デイサービス、ショートステイなど多くの施設やクリニックがある。小高い山を利用して作られたこの施設は開設から20数年を経ていま地域のランドマーク的存在になっている。地域との交流行事も盛んに行われているが、普段はこの施設だけで一つのコミュニティが出来上がっているといっても過言ではない。素晴らしい環境と行き届いた介護で利用者もゆったりと静かに生活している。家族との連携も順調である。運営推進会議も定期的に行われ、意見を取り入れ、日常の介護に活かされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価では改善の課題は無かったが、よりよい介護を目指し朝礼、ミーティングなどで話し合い理解に努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員がミーティングや朝礼で意見を出し、管理者が集約し取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に運営推進会議を開催し、利用者の現状報告や外部評価の報告を行い、意見や助言を貰っている。また地域からの提案を取り入れる等、そこでの意見をサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族会があり家族の意見や苦情を伝える機会を設けている。また苦情相談箱の設置や第三者相談窓口の明示をし入居時に説明をしている。家族等の来訪時には意見を聴くよう努め、出された意見は運営に反映されている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地域住民としての役割を事業所全体で担っている。また地域行事に参加し、地域の小中高校との交流も盛んに行われている。一般ボランティアの受け入れや福祉関係学校の職場体験なども受け入れている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型の視点があり、事業所独自の理念が作り上げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念が書き込まれた名札を付けて毎日の朝礼で唱和している。また毎月のミーティングで言葉かけ、接遇についても話し合い、理念を共有し実践できるように取組んでいる。		
<b>2. 地域との支え合い</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域住民としての役割を事業所全体で担っている。また地域行事に参加し、地域の小中高校との交流も盛んに行われている。一般ボランティアの受け入れや福祉関係学校の職場体験なども受け入れている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で意見を出し、管理者が集約し取り組んでいる。前回の外部評価では要改善の課題は無かったが、よりよい介護を目指し朝礼、ミーティングなどで話し合い理解に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、利用者の現況報告や外部評価の報告を行い、意見や助言を貰っている。また地域からの提案を取り入れる等、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は、行政担当者と報告・相談等で日常的に連携を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や成年後見制度に関する外部研修や内部研修をしている。また一部の職員が研修に参加した場合は伝達研修を行っている。テキストや研修記録、報告書がある。利用者が入居する際には家族に説明をしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回事業所便りを送付し、利用者の暮らしぶりや行事報告、写真を掲載している。事業所便りには利用者ごとの近況を報告する欄や預かり金の収支を記載する欄があり、個々にあわせた報告を行っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり家族の意見や要望を伝える機会がある。また苦情相談箱の設置や第三者相談窓口の明示をし入居時に説明をしている。家族等の来訪時には意見を聴くよう努め、運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は異動や離職を必要最小限に抑えるため職員からの相談を受けやすいよう努めている。やむを得ず職員が代わる時は引継ぎの期間を十分に設けている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては公平性をもち性別や年齢、資格の有無などを理由に採用対象から排除しないようにしている。本人の意欲と適性を重視し、能力が発揮できるように資格取得のための支援体制がある。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人代表は人権教育の重要性を認識している。一部職員が外部研修に参加した場合は伝達研修を行い、全職員が共有できるようにしている。テキストやパンフレット、研修報告書がある。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者・管理者は日常的に学ぶ事を推進している。キャリアに応じた研修を計画し、内外部の研修に参加している。働きながらスキルアップができる仕組みがある。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に加入し、管理者と職員は研修会等に参加している。また他事業所との交流があり情報交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に家族と共に見学し、希望があれば体験入所も行っている。また、職員は自宅や病院を訪問し利用者の状態を把握し、馴染みの関係を築くよう努めている。やむを得ず即利用の場合は、家族と相談しながら工夫している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	29	<input type="checkbox"/> 本人と共に過ごし支えあう関係  <input type="checkbox"/> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	茶道の得意な利用者から作法を教わったり調理や裁縫で助言を貰う等、利用者の得意分野を発揮してもらいながら日常生活の中で楽しみを共有しともに助け合い支えあう関係を築いている。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	<input type="checkbox"/> 思いや意向の把握  <input type="checkbox"/> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者に声をかけながら、言葉や表情から意思を汲み取り思いや希望の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は家族や関係者から情報を得るようにし本人本位に検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	<input type="checkbox"/> チームでつくる利用者本位の介護計画  <input type="checkbox"/> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向・希望を尊重し、職員の意見や気づきを反映させながら、個別的で具体的な介護計画を作成している。家族から介護計画の同意に関する押印をもらっている。		
19	39	<input type="checkbox"/> 現状に即した介護計画の見直し  <input type="checkbox"/> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回介護計画を見直している。また利用者の状態変化や状況に応じて、その都度介護計画の見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	<input type="checkbox"/> 事業所の多機能性を活かした支援  <input type="checkbox"/> 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した際は定期的に病院訪問を行い、医療関係者や家族と連携を図り、早期退院に向けて取り組んでいる。また本人・家族の状況に応じて通院など必要な支援は柔軟に対応している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の受診経過や状況を把握し、希望する医療機関の受診を支援している。家族と通院方法や情報の伝達方法について話し合い了承を得ている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期において、事業所が対応し得る支援について、入居時や必要時に家族に説明している。本人・家族の意向を確認しながら、かかりつけ医・職員全員で方針を共有する体制を整えている。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねることがないように、言葉かけや対応に配慮している。接遇や個人情報の取り扱いについて定期的に研修を行い職員の意識向上を図っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、起床や食事時間なども一人ひとりの状態や気持ちに配慮しながら柔軟に対応している。レクリエーションや外出なども全員参加ではなく、本人の希望を尊重しながら個別に対応している。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者は一緒に食事の準備や後片付けを行っている。職員は利用者と同じ食事を同じテーブルで楽しく会話をしながら食べている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調や希望にあわせて柔軟に対応している。入浴拒否する利用者に対しては、声かけや時間帯をずらすなどの工夫をして入浴できるように支援している。また、日曜日は併設のケアハウスの大浴場の利用ができる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者のできることや得意なことを把握し、利用者の知恵や経験を発揮できる場面作りを行っている。調理、生け花、茶道、習字、裁縫等、楽しみごとも含めて一人ひとり支援している。		
28	63	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状況や希望に配慮して、毎日の散歩や月2～3回のドライブや買い物、月1回の外食等、毎月行事予定表を作成し戸外に出かけられるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関は施錠していない。職員は利用者の外出傾向を把握し、見守りや付き添いを行っている。		
30	73	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、消防署の協力を得て法人での総合避難訓練を年に2回、事業所のみで年数回の避難訓練を行っている。非常食・飲料水・備品を準備している。また避難訓練を実施する際、地域住民に呼びかけをしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養摂取量及び水分摂取量の記録が全利用者分ある。献立は母体法人の管理栄養士が作成している。月に数回、事業所で利用者の嗜好や希望を取り入れ調理を行っている。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間は、利用者や職員が作成した季節感のある絵や折り紙で彩られ、広々とした量のスペースやゆったりしたソファなどが配置されている。明るさは程よくカーテンで調節され居心地のよい雰囲気である。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には利用者の使い慣れた小筆筒・テレビ・机などが持ち込まれ、写真や人形などが飾られている。趣味の茶道具を持ち込み楽しんだり居心地よく過ごせる工夫をしている。</p>		

※  は、重点項目。